

福島工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	電気電子計測 I
科目基礎情報				
科目番号	0019	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義・演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子システム工学科	対象学年	2	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	電気・電子計測【第3版】、阿部武雄・村山実、森北出版株式会社			
担当教員	植英規			

到達目標

- ①各種単位系や指示計器の基礎的な仕組みを理解している。
- ②計測値の統計的な扱いや誤差、有効数字等について理解している。
- ③各種電気特性の基本的な計測方法について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
単位系や指示計器について	単位系や指示計器の基本構成について理解し、応用することができる。	単位系や指示計器の基本構成について理解している。	単位系や指示計器の基本構成について理解していない。
誤差や有効数値について	統計量や誤差、有効数字について理解し、実際の計算に応用することができる。	統計量や誤差、有効数字について理解している。	統計量や誤差、有効数字について理解していない。
電気特性の計測法について	基本的な電気特性の計測法を理解し、応用することができる。	基本的な電気特性の計測法を理解している。	基本的な電気特性の計測法を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	電気電子工学に関するすべての実験において重要な“計測”についての基礎的事項を学ぶ。
授業の進め方・方法	定期試験の成績を70%、課題演習の成績を20%、授業への取り組みを10%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 中間試験、期末試験は50分で実施する。
注意点	電気回路基礎・実習、電気磁気学基礎の内容を理解しておくこと。

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週 電気電子計測の概要	計測の意義、役割
		2週 単位系と標準	SI単位系、基本単位、1アンペアの定義
		3週 計測の基礎	計測の方式、精度と誤差、誤差率
		4週 測定値の扱い	有効数字、平均値、標準偏差
		5週 指示計器①	指示計器の分類、構成
		6週 指示計器②	可動コイル型計器の原理、目盛の読み方
		7週 総合演習	これまでの内容の総括
		8週 直流電圧・電流の測定①	分流器、直列抵抗器
	2ndQ	9週 直流電圧・電流の測定②	直流電位差計
		10週 抵抗の測定①	電圧降下法、テスタ
		11週 抵抗の測定②	ブリッジ回路
		12週 波形の観測①	直流と交流の違い、正弦波交流の基礎
		13週 波形の観測②	アナログオシロスコープの原理
		14週 波形の観測③	オシロスコープによる周波数、位相の測定
		15週 総合演習	これまでの内容の総括
		16週	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	4	
			オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	4	
			キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	4	
			合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、直流回路の計算ができる。	4	
			ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。	4	
			正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。	4	
		計測	計測方法の分類(偏位法/零位法、直接測定/間接測定、アナログ計測/デジタル計測)を説明できる。	4	前3
			精度と誤差を理解し、有効数字・誤差の伝搬を考慮した計測値の処理が行える。	4	前8
			SI単位系における基本単位と組立単位について説明できる。	4	前2
			計測標準とトレーサビリティの関係について説明できる。	4	前3

			オシロスコープの動作原理を説明できる。	4	前13		
評価割合							
	試験	課題演習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0